

## Global Education Network for Sustainable Future Hiroshima (GENS)

～ グローバルな視野とローカルな視点からの学び ～

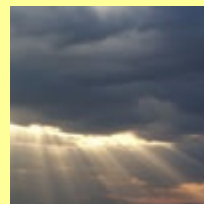
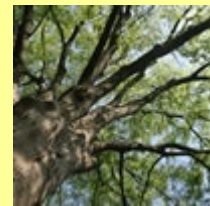
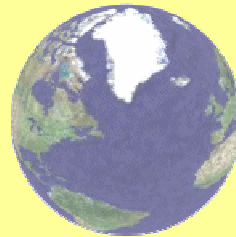
Newsletter No.10  
2017.5.27.

事務局 kyoikujuku.hiroshima@gmail.com  
URL http://genshiroshima.web.fc2.com/  
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号  
広島市まちづくり市民交流プラザ内 メールボックス 7

### 地球市民共育塾ひろしま



Have a Dream...  
Do the Action!  
for  
the Better Future



世界中の人々が一人ひとり幸せに生きられる。そんな社会を願う人々の「出会い」と「学び」と「行動」の場です。「貧困」「難民」「食」「平和」「ジェンダー」「教育」。取り扱うテーマも十人十色。「開発教育」に関心のある人なら、だれでも参加できます。参加型の学習会を定期的に行っています。

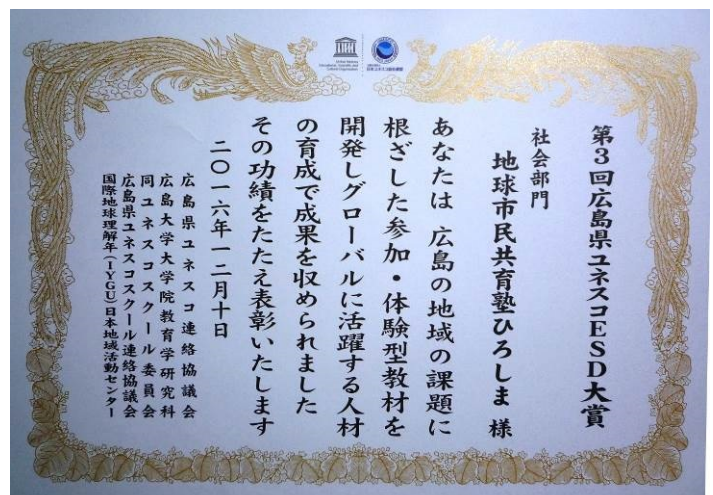
～ あなたも地球市民共育塾ひろしまで一緒に学びませんか？ ～



## 祝 広島県ユネスコESD大賞受賞

このたび私ども「地球市民共育塾ひろしま」は、広島県ユネスコ連絡協議会主催の、第3回広島県ユネスコESD大賞(社会部門)をいただくという栄誉にあずかりました。

これまでご指導、ご支援いただいた皆様方に厚く感謝申し上げますとともに、共にこの栄誉を喜び分かち合いたいと思います。



# 広島県ユネスコ ESD 大賞受賞

## ごあいさつ

さる2016年12月10日に開催されました広島県ユネスコESD大賞授賞式において、私ども「地球市民共育塾ひろしま」は、第3回広島県ユネスコESD大賞(社会部門)をいただきました。

私どものような小さな団体の活動が、こうように高く評価されたことはたいへんありがたいことだと思います。

広島県ユネスコ連絡協議会の亀井章会長様、池野範男事務局局長様をはじめ、関係の皆様方に厚く感謝申し上げます。



## 「地球市民共育塾ひろしま」の活動の経緯



地球市民共育塾ひろしまは、開発教育・地球市民共育の学び合いを目的とした市民の団体として、2005年5月に設立されました。

以来、私たち地球市民共育塾ひろしまでは、地球的課題の理解と解決をテーマとした様々なワークショップの開催、ファシリテーション・スキルの研鑽のための講座開催、地域の課題をテーマとした参加型学習の教材づくりなどに取り組んできました。

## 共育塾の活動は持続可能な社会づくりに貢献する

私どもの開発教育の取組は、それ自体が、ESD(持続可能な社会づくり)の活動に繋がっているといえます。

例えば、開発教育の普及・啓発の活動はグローバル人材育成につながっています。共育塾のワークショップに参加することで、身近な社会や世界の抱える様々な課題(対立や構造的暴力など)の所在に気づき、その現状や原因を理解し、平和的な解決に向けて参加していく態度や技能を養うことができます。実際に、共育塾のワークショップで学んだ参加者の中からは、様々な気付きを得て、その後NGOスタッフやJOCVへの参加者、様々な市民活動に関わる人など、グローバルに活躍する多様な人材を輩出しております。

また、広島地域の課題に沿った「平和」や「多文化共生」にかかわる参加型の教材プログラムの開発により、地域の課題に沿った広島のESD教材として、広く発信することもできたといえます。



## これから

地球市民共育塾ひろしまは、今後もESD(持続可能な未来、持続可能な社会)の実現に向けて、広島県の足元から新しい参加型の学び合いを促していくような活動を広げていきたいと思っております。

## ルワンダ ~ジェノサイドから新しい国づくり ~歴史と教育に学ぶ<sup>初</sup>訪問記(2)

ルワンダ滞在の最初の週、スタディツアー4日目。2月の最終土曜日、国をあげて住民が各地域に奉仕する活動「Umganda(ウムガンダ)」に参加できると前日聞いて、ワクワクしていた。野外で何か作業できる服や靴をあらかじめ日本から持参していないので緊張もあった。1889年ドイツの保護領となる前のルワンダの歴史~そして1960年の独立、その後さらに内戦が激化~1994年にジェノサイド(大虐殺)が起こり、その後どのようにコミュニティを再建してきたのか? - ルワンダにいる間にぜひ知りたかった。国民総出の地域の奉仕活動という「ウムガンダ」に、その国家再建、国民の意識統合のヒントの1つがあるのではないかと思った。

もともと世界の様々な言語や文化に興味がある。ほとんど未知のキニヤルワンダ(ルワンダ語)の「ウム」が語幹に付く言葉に、音感からも「おらが〇〇」「私の/私たちの〇〇」という何かとても身近な共同体的意識を掻き立てられるのを感じた。

朝8時前、キガリ市内は前日までと違い、ほとんど車が走っていない。この時間まだ集合場所に向かうらしき車は見られた。会社もお店も午前中閉まり、静かだった。毎月最後の土曜日朝8時~11時半の間、行う時間帯は地域によって違うようだ。以前は毎週土曜日にやっていたが、今はその日に決められているとのこと。参加者は、大統領も例外ではない。交差点の角に清掃具を持つ数人が見えた。今日はどこの地域の住民の方々と清掃をするのだろうか? この日の「ウムガンダ」で何の作業をするのか、まだ誰も聞いていない。「ルワンダの教育を考える会」主催のスタディツアー訪問団の私たちを迎えに来たバスが、首都キガリの指定集合場所に止まった。どうやらこれから集まって来る数台の車輛の中に、今回のリーダーがいて、私たちにどこでどのような作業をするのか指示があるもよう。でもまだ他の車が来る気配はない。

昔日本史で村の連帯を培う行事を習った。今も実家の町内会で行われている(地域により呼称が違う)「惣事(そうごと)」=町内会メンバー総出の地域奉仕活動(排水溝の清掃、道修繕など)と似てるかなと想像しつつ待つこと約30分。緑のユニフォームを着た人たちが数台の車で現れた。ルワンダのサファリ・ガイドのロゴだった。村(ウムドゥグドゥ)に到着。ふと見ると、1台のバスの車体正面にウガンダ国旗が付けられていた。助っ人は国際チームだ。

ルワンダから発信されている面白いブログの1つ、昨年2月からルワンダで活動中の青年海外協力隊員(職種:コミュニティ開発)のタケダノリヒロさんの「冷静と情熱のアイダ」から引用。インターネットで最近見つけた。(http://xn--rck1ae0dua7lwa.com/blog/2016/03/27/umuganda/)

「18歳から65歳の健常者が参加の義務があり、清掃活動や学校・医療施設の建設などが行われます。1962年の独立以降行われていましたが、94年にツチ族に対する大虐殺(ジェノサイド)が発生。当時ウムガンダは、「隠れているツチ族を見つけ出して駆逐するための運動」と曲解されて利用されていたようです。

そこで一旦ウムガンダはなくなりますが、98年にコミュニティ再生を目的として再度導入され、いまに至ります。参考:Umganda Rwandapedia」



村(ウムドゥグドゥ)にやっと到着。村入口で、まず子どもたちの熱烈的な歓迎を受けた。参加者が全員集合し、当日ウムガンダの作業内容を聴く。山刀(マチェテ)や鋤状の道具を手に草を刈り、一緒に道を開いていく。



既存の集落の下の対面に移住した新しい住民のための道づくり開墾作業。作業者はルワンダ、ウガンダ、日本等から参加の混成チームと住民。山刀など映画では見たが使い慣れない開墾具に汗だくの大仕事。ヘナチョコではいけないと奮起してさらに頑張ったが、最後の方はほぼ力尽きてしまった。

道端に迫る村の家々の近くにバナナがたくさん生えている。切り倒していいよと言われ、村人と一緒に切り倒す。しかし、今から道になる叢(くさむら)の真ん中に「マニョーカ」と呼ばれるカッサバがひょろっと生えているのには、刃を入れてはいけない。1時間余り、なかなか使い慣れない山刀と、鋤に似た道具で汗だくで頑張ったが、体力が尽きてきた。たくさんの人の一斉作業。若い住民たちも並んで呼吸を合わせ鋤を打っている所に遭遇。美を感じていると、作業終了。参加者と村の役員たちとで車輛群を囲んで集まるよう、全員に声がかかった。

参加者は総勢百人余りか。まず村の住民代表からご挨拶。その直前、今回の助っ人集団のリーダーのルワンダのサファリガイド協会の男性から突然「この次君が挨拶して」と声を掛けられた。訪問団に支援活動を長く続けておられる方々や人生の先輩がたくさんいらっしゃる中でなぜ唐突に新米の私が?と恐縮したが戸惑う暇もなく、次の番が来た。「皆が一緒に心を合わせ、力を合わせれば山も動く。今日はそれを実感しました。皆さんに感謝です!」というように大声で述べた。即キニヤルワンダに通訳された。まだ誰か村役員の挨拶が続く気配だ。訪問団は先頭から徐々に引き上げ始めていた。(へ続く)

# 「地球市民共育塾ひろしま」のご案内



Global Education Network for Sustainable Future Hiroshima (GENS)

「地球市民共育塾ひろしま」(略称・共育塾)とは

Have a Dream. Do the Action! for the Better Future.

「貧困」「難民」「食」「平和」「ジェンダー」「教育」...。取り扱うテーマも十人十色。世界の人々が一人ひとり幸せに生きられる。「地球市民共育塾ひろしま」は、そんな社会を願う人々の「出会い」と「学び」と「行動」の場です。

地球市民共育塾ひろしまは、開発教育やESD(持続可能な開発のための教育)の学び合いを目的とした市民のグループとして、2005年5月に、学生中心の団体であった旧「地球市民共育塾ひがしひろしま」を改組して、「地球市民共育塾ひろしま」として設立、今日に至っています。

## 開発教育とは

世界で起こっている貧困・飢餓、紛争・戦争、環境破壊、人権侵害といった問題は、日本の社会のあり方や私たちのライフスタイルとも深く関係しています。また日本にも同様の問題が存在しています。開発教育は、私たちひとりひとりが、このような世界のさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動です。開発教育では、学習者が自ら答えを見出していくプロセスを重要視し、そのためロールプレイ、ディベート、ランキング、フォト・ランゲージ、シミュレーションなどのようなワークショップ(参加型学習)と呼ばれる手法を用いています。

## 参加型の教材開発

共育塾では、2010年度から、地域の課題に対応した広島発のあたらしい参加型教材プログラムを開発する取り組みを行ってきました。その成果として、2012年3月に『参加型で学ぶ「広島」「ヒロシマ」「Hiroshima」』、2015年3月には『参加型で学ぶ「広島と多文化共生」』の2冊の教材集を発刊することができました。この教材集は、関係機関や開発教育やESDの実践者の皆様に寄贈させていただいております。

## みなさんも参加してみませんか

共育塾では、教材づくり以外にも、連続講座の実施、「広島市まちづくり市民交流フェスタ」へのワークショップ企画参加、「広島市国際交流・協力の日」へのブース出展、他団体との協働事業などや、セミナー等への講師派遣なども行っています。また、共育塾ではメーリングリスト会員制度もあり、教職員、会社員、国際協力関係者、NGOや地域活動関係者、研究者、大学生・院生など多様なジャンルの方々100人以上に登録していただき、情報交換を行っています。

ご関心のある皆さまのご参加をお待ちしております。



役員 代表 : 荒川純太郎 (共生庵・地球市民共育塾共同主宰)

事務局代表 : 中須賀裕幸・服部淳子

教材づくり代表 : 富田和広・岡田祐一

## 刊行物

- ・「地球市民共育塾ひろしま年次報告」(1~5)。
- ・「中国地区開発教育担い手連携・スキルアップ連続講座報告書」。
- ・教材集『参加型で学ぶ「広島」「ヒロシマ」「Hiroshima」』
- ・研究成果報告書『広島の開発教育・ESD』
- ・教材集『参加型で学ぶ「広島と多文化共生」』

ホームページ URL <http://genshiroshima.web.fc2.com/>

メール: [kyoikujuku.hiroshima@gmail.com](mailto:kyoikujuku.hiroshima@gmail.com)

問い合わせ先: 〒730-0036 広島市中区袋町6番36号 広島市まちづくり市民交流プラザ内 メールボックス 7

